

風の視覚化

風の視覚化によって見出される可能性

Wind visualization
Potential to be found by wind visualization

三上春輝 指導教員 坂元愛史
サレジオ工業高等専門学校デザイン学科 インテリア・家具研究室

キーワード：風、人、視覚化、生活、叙情

1. 研究目的

風にまつわる文学表現や映像作品などが数多くあるように、風そのものには人の心を動かすメントが数多く含まれている。にもかかわらず、他の自然現象と比べて人々の生活の中で活躍する機会はあまり多く見られない。そこで、視覚情報を持たない風に媒体を与え視覚化した上でその性質を観察、追求し、人々の生活とより近いところにその叙情的な要素を具象化できる可能性を模索することにした。

回転する羽根によって風を発生させて涼感を得る機器。

2) 加湿器



室内気の加湿のために使う空気調和設備。

3) エアコン



2. 調査内容

まずは身近な家電やインテリアから、風や空気の流れを利用しているものとしてカテゴライズできるものをピックアップし、日常生活にどのように溶け込んでいるかの調査を行った。
結果として、一般家庭により多く取り入れられているであろう以下の3種類が、現代の人々の生活の中にある主な風の要素であると判断した。

1) 扇風機

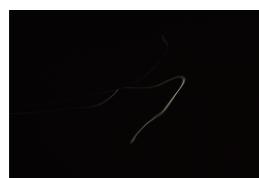
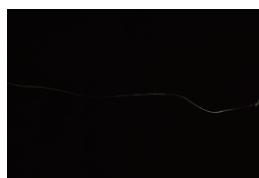


いずれの家電もあくまで環境を整えるためのものであり、風が風として取り込まれているような機能は備わっていないことが伺える。

風を風として感じるためには、視覚情報などの具体的な感覚を備えておく必要がある。

3. アイディア展開

風は元来視覚情報を持たない流動的なものであるため、実態を捉え観察するためには、風を視覚化できる媒体を通して写真という形に収め、纏めるのが最適であると考え、写真撮影による資料収集を行った。現段階では糸、布、草をそれぞれ10～20枚ずつほど撮影している。



4. 現段階での最終提案

300～500枚ほどの撮影した写真を纏めた風の資料集を作成する。冊子のような形にするか否かは検討中である。そこで纏めた写真から受け取ったインスピレーションを参考に、人々の生活に取り入れられやすい成果物の提案を行う。

5. 今後の展開

服の裾、火、波、髪 等、他10数種類のモチーフの撮影を引き続き行い、撮影の成果を如何にしても最終提案物に落とし込むかの検討を行う。また、アンケート等の調査や、文献等の資料収集を行い、自身の考察以外の第三者の意見も研究に反映させる。